

ご挨拶

日頃より、館林市教育研究所に対しまして、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

館林市教育研究所設置条例が、昭和31年12月5日に施行され、教育に関する研究調査及び教育関係職員の研修を行うことを目的として、本市に教育研究所が設置されました。以来、本市における学校教育の質的向上を目指し、調査研究や教職員研修、教育相談事業に邁進してまいりました。

今日、学校教育は大きな転換期にあります。ICTを活用した教育活動の推進や、働き方の「量」と「質」の両面から真に必要な教育活動を見極めることが求められています。特に、児童生徒の「確かな学力」と「豊かな人間性」の育成は、本市においても重要課題であり、これらに対応できる教職員の資質向上は急務であると考えます。

さて、文部科学省が令和7年10月に発表した「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果によると、全国の状況は極めて深刻です。いじめ認知件数は、約76万9千件で過去最多、不登校児童生徒数は約35万4千人で、これも過去最多であると同時に、11年連続増加傾向にあります。本市においてもこの傾向は顕著であり、令和7年度の相談実績（電話・来所・訪問）は延べ500件を超え、教育支援センター「ふれあい学級」の利用者数も含め、当研究所が担うべき責任の重さを痛感しております。

これらの課題解決に向け、令和8年度は以下の三つの柱を中心に、実践的な研究・支援を展開したいと考えています。

一つ目は、先導的な調査研究と授業改善です。「道徳」「算数」の授業改善に加え、新たに「生成AI活用研究班」を編制し、最先端技術と教育活動の調和、および新しい時代に求められる資質・能力の育成を探求します。

二つ目は、不登校支援と居場所づくりです。「館林市不登校早期対応プログラム THANKS」を推進するとともに、「ふれあい学級」において社会的自立を見据えた体験活動を拡充し、児童生徒が安心して過ごせる環境と学びの機会の充実に努めます。

三つ目は、日本語学習プレクラス「つつじみらい教室」における指導です。外国籍児童生徒の増加に伴い、本年度より新たに設置いたしました。日本語指導を必要とする児童生徒に対し、初期の日本語学習および学校適応指導を集中的に行い、各学校での円滑な学校生活へ繋がるよう支援していきます。

今後も「児童生徒や保護者・学校現場と共に」を念頭に置き、教育・福祉・多文化共生など多角的な視点から関係機関と緊密に連携しながら、スタッフ一同業務に邁進してまいります。皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

館林市教育研究所長 峯崎 正樹